

事業再評価

社会資本整備総合交付金事業

一級河川 利根川水系 鹿島川・高崎川

平成28年12月21日

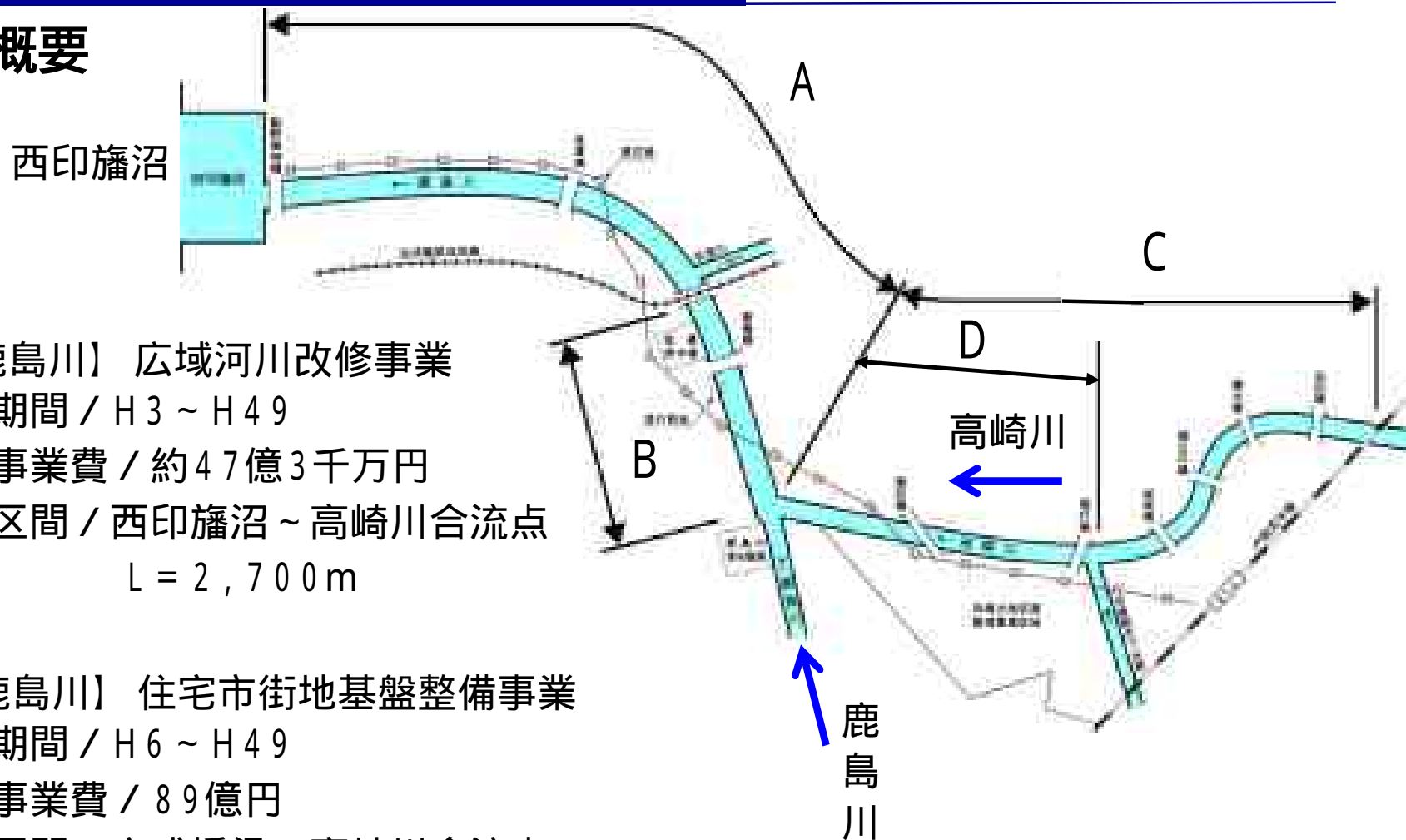
千葉県 県土整備部 河川整備課

目次

- 1 . 事業の概要
- 2 . 事業の進捗状況
- 3 . 社会経済情勢等の変化
- 4 . 事業投資効果
- 5 . 事業の進捗の見込み
- 6 . コスト縮減
- 7 . 対応方針(案)

1. 事業の概要(鹿島川)

事業概要

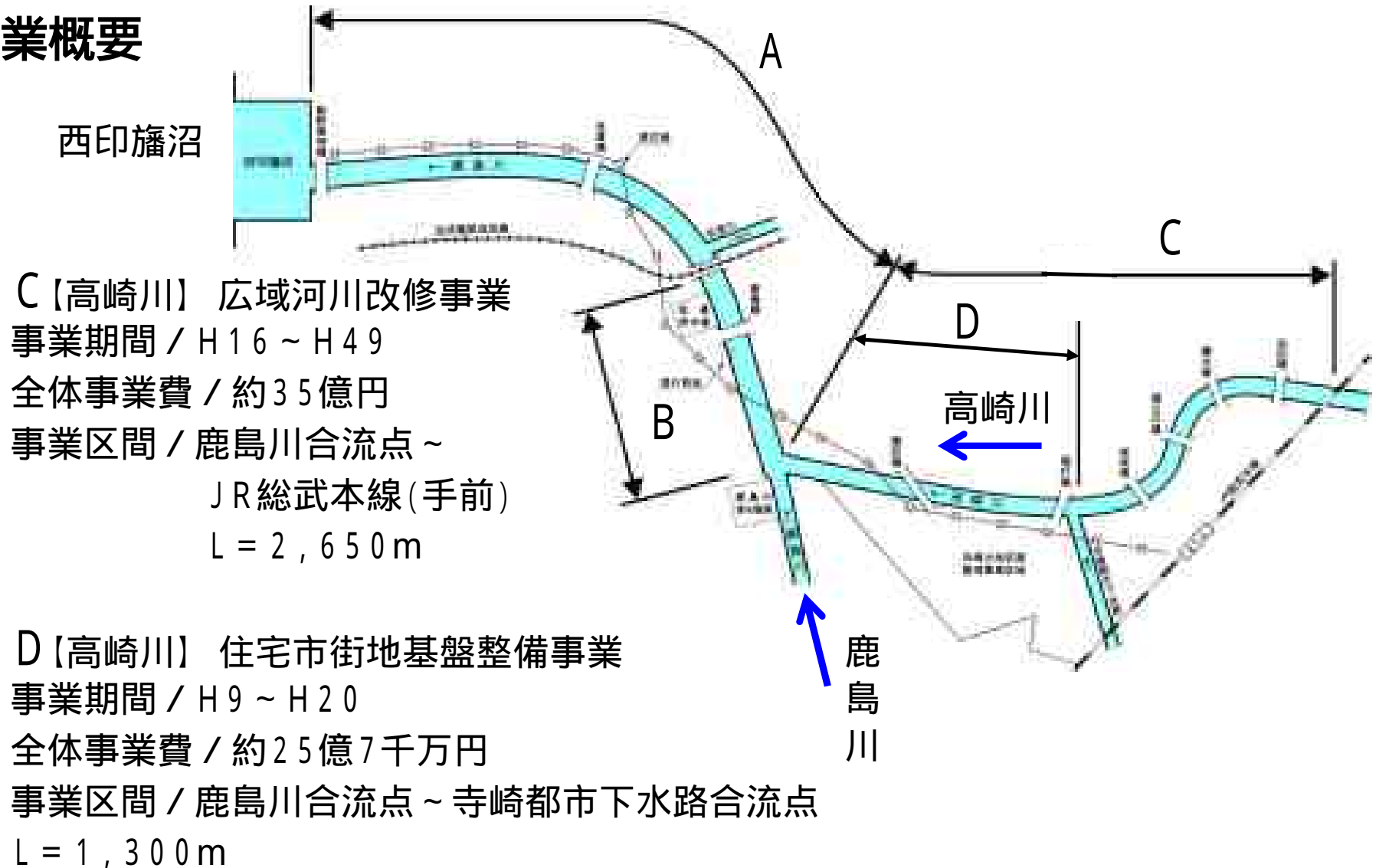


A【鹿島川】 広域河川改修事業
事業期間 / H3 ~ H49
全体事業費 / 約47億3千万円
事業区間 / 西印旛沼 ~ 高崎川合流点
L = 2,700 m

B【鹿島川】 住宅市街地基礎整備事業
事業期間 / H6 ~ H49
全体事業費 / 89億円
事業区間 / 京成橋梁 ~ 高崎川合流点
L = 900 m

1. 事業の概要 (高崎川)

事業概要



1. 事業の概要 (鹿島川)

事業概要

鹿島川治水安全度

西印旛沼～高崎川合流点: 1/10

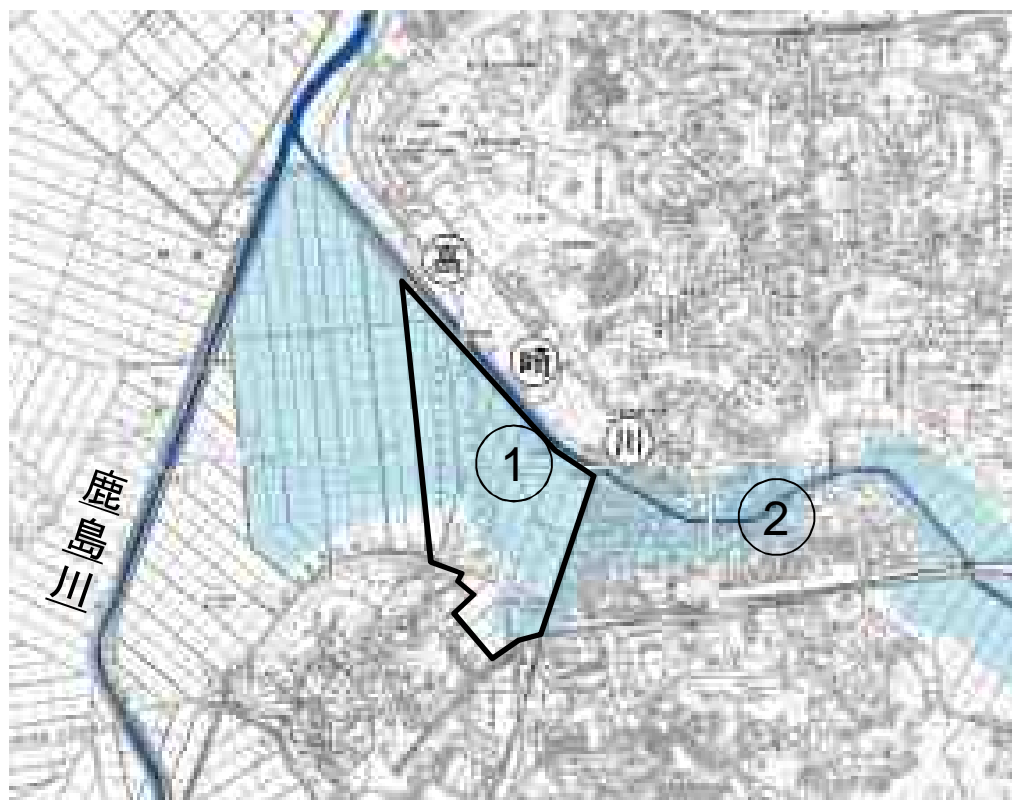
工種	数量	
	広域基幹	住宅市街地
築堤	3,700 m	
掘削	685,000 m ³	53,200 m ³
道路橋	2 橋	4 橋
鉄道橋		1 橋
樋門	3 箇所	
その他	2 式	
用地補償	45,950 m ²	161,270 m ²

代表横断図



1. 事業の概要

事業の必要性



平成8年9月出水 浸水実績図

床上浸水54棟 / 床下浸水 45棟 / 浸水面積148ha



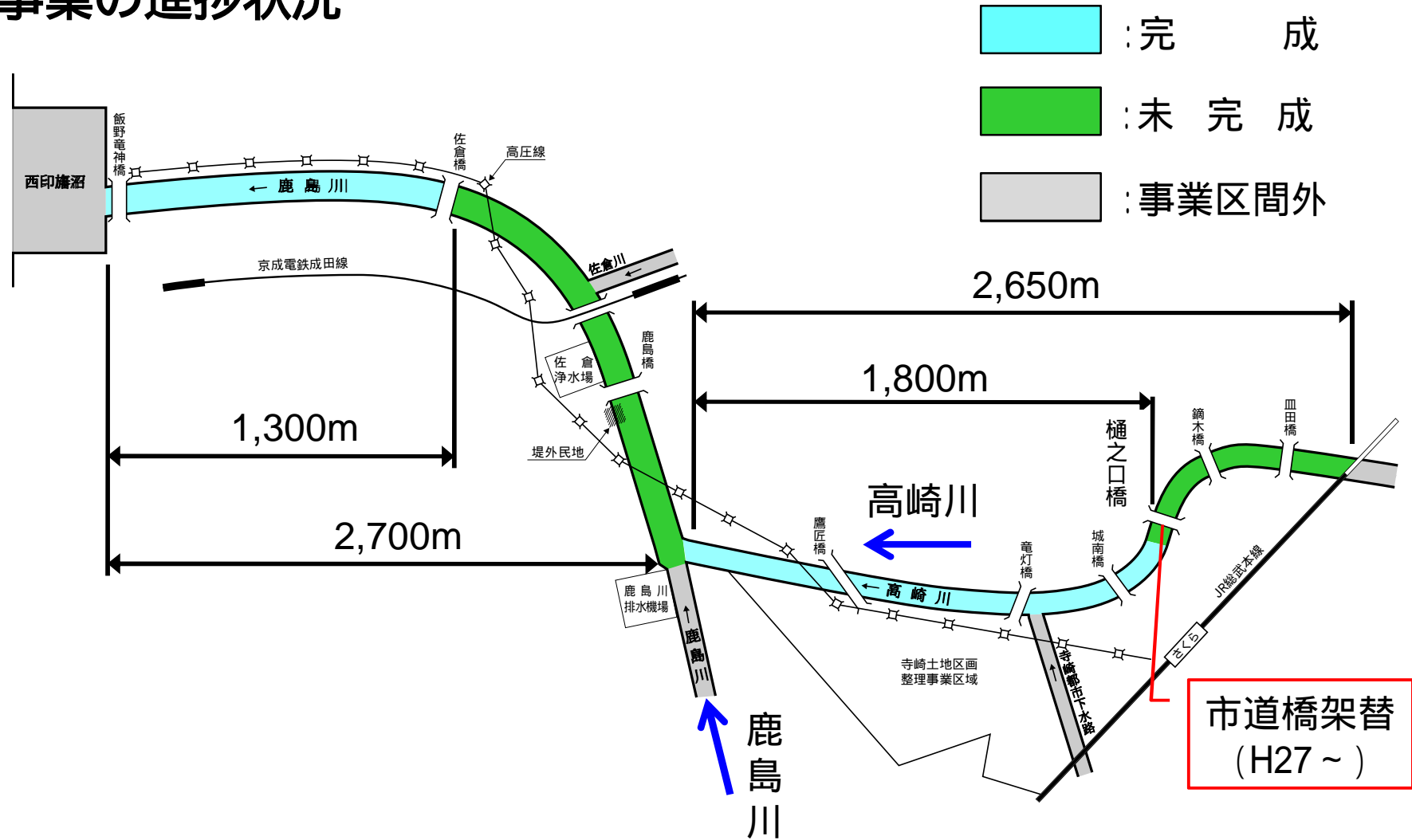
平成8年9月21日 台風17号
鹿島川河口付近の浸水状況



平成8年9月 21日 台風17号
樋ノ口橋下流の浸水状況

2. 事業の進捗状況

事業の進捗状況

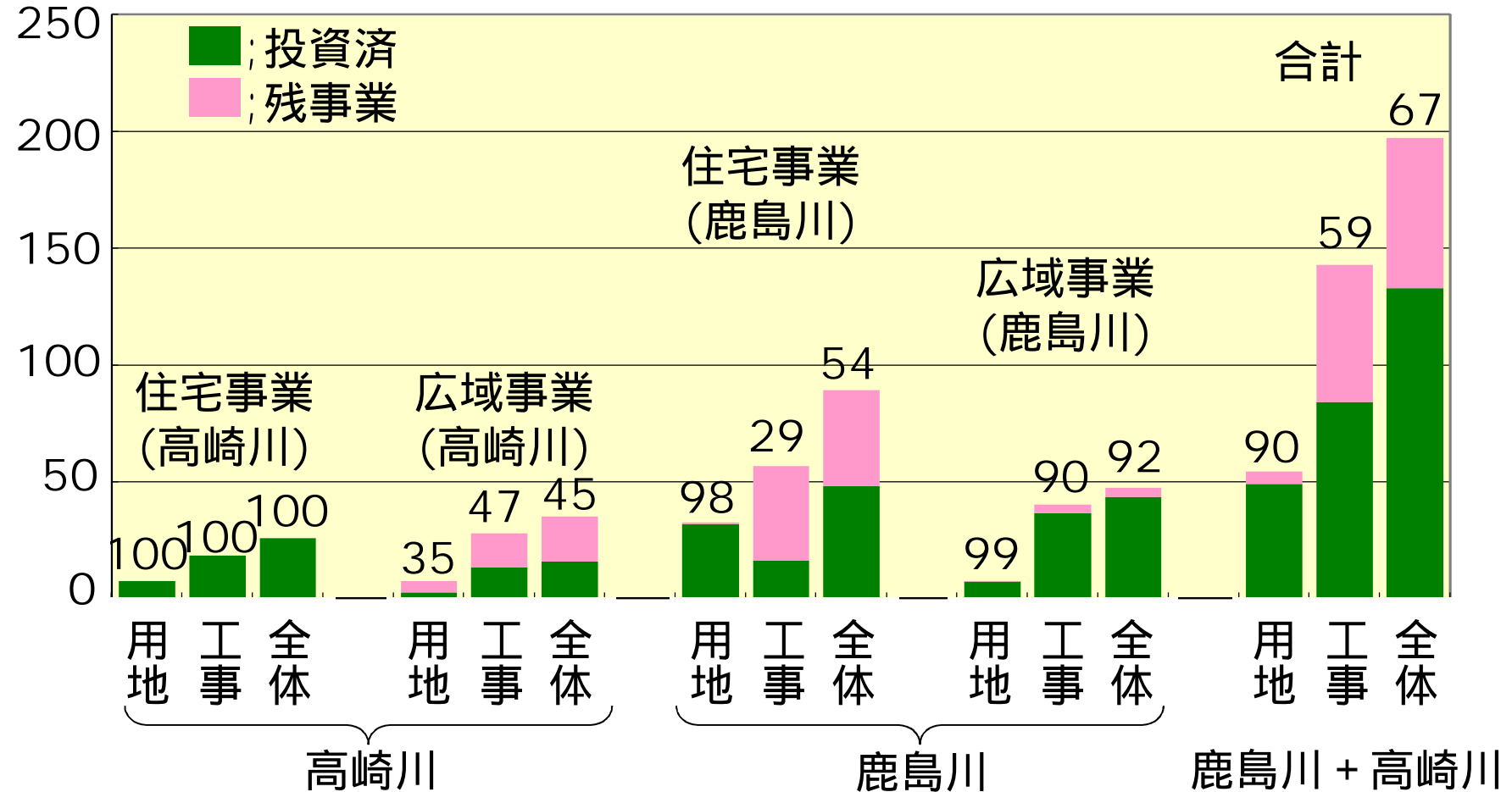


2. 事業の進捗状況

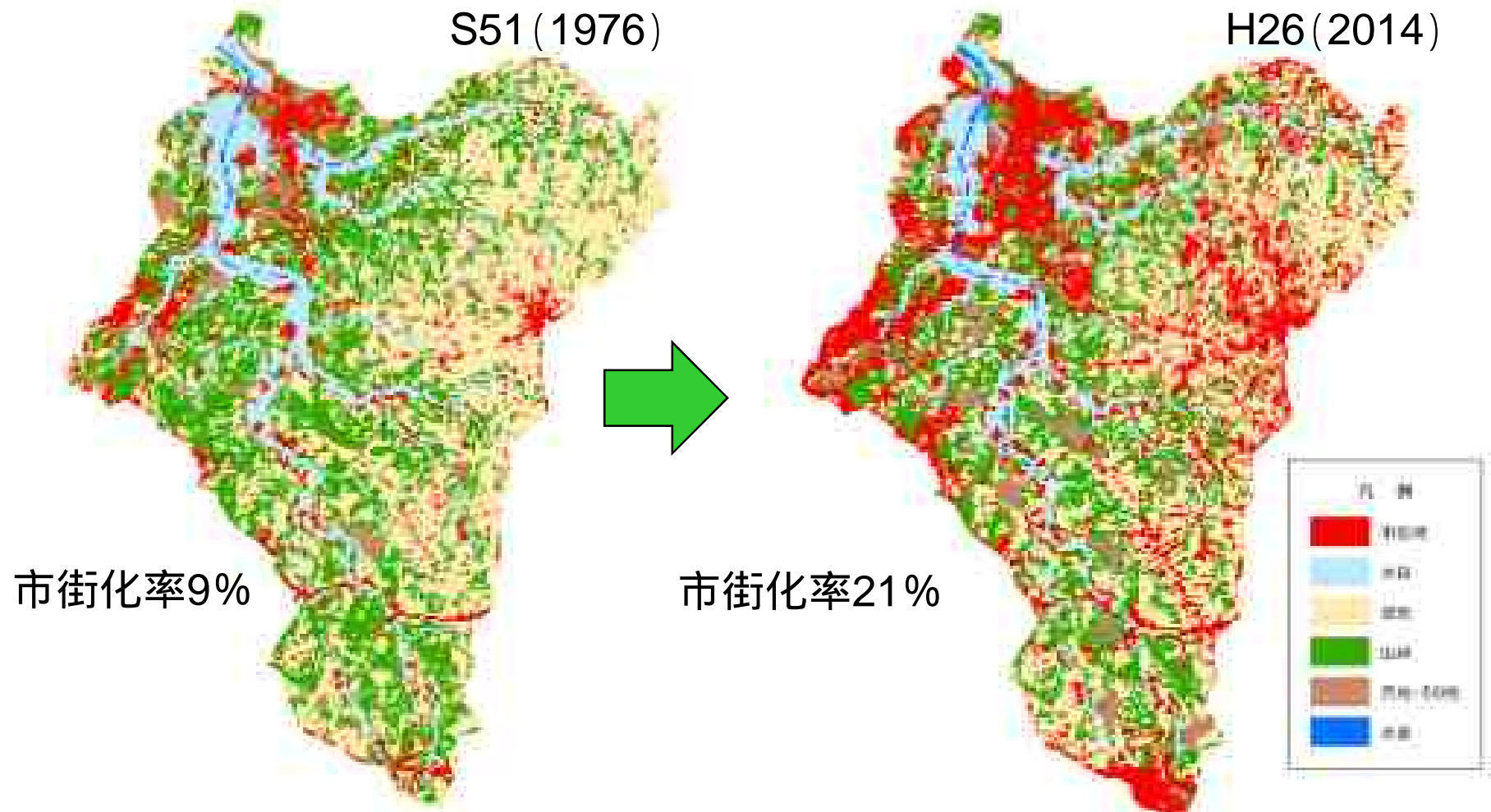
事業の進捗状況(事業費)

(億円)

図中の数字は進捗率(%)を示す。(H28年度末見込み)



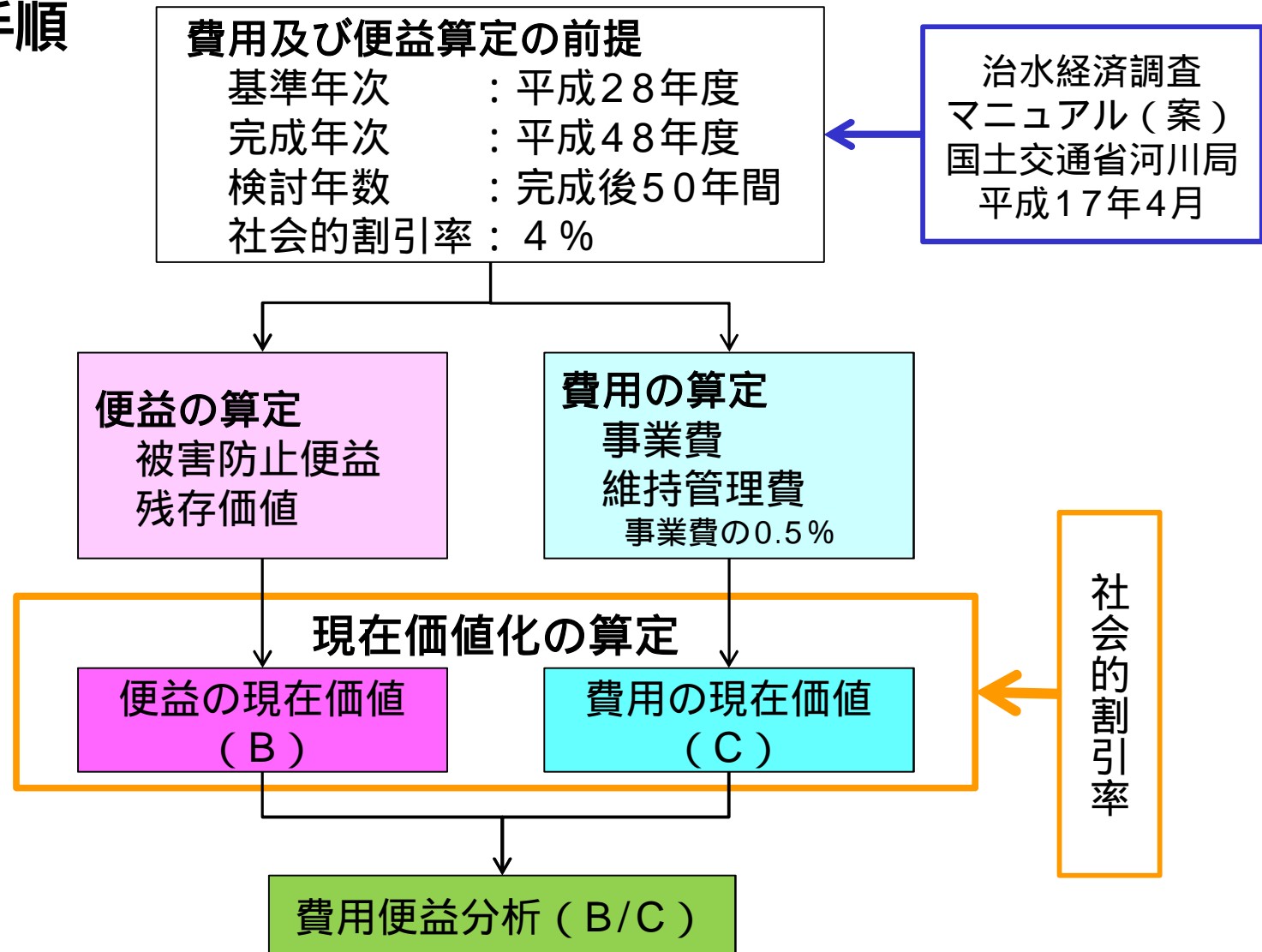
3. 社会経済情勢等の変化



鹿島川流域土地利用変化(出典;国土数値情報)

4. 事業投資効果

便益算定手順



4. 事業投資効果

費用便益比

残事業評価

便益(B)	被害防止便益	残存価値	総便益	費用便益比 (B/C) 1.5
	79億円	1億円	80億円	
費用(C)	事業費	維持管理費	総費用	
	43億円	12億円	55億円	

全体事業評価

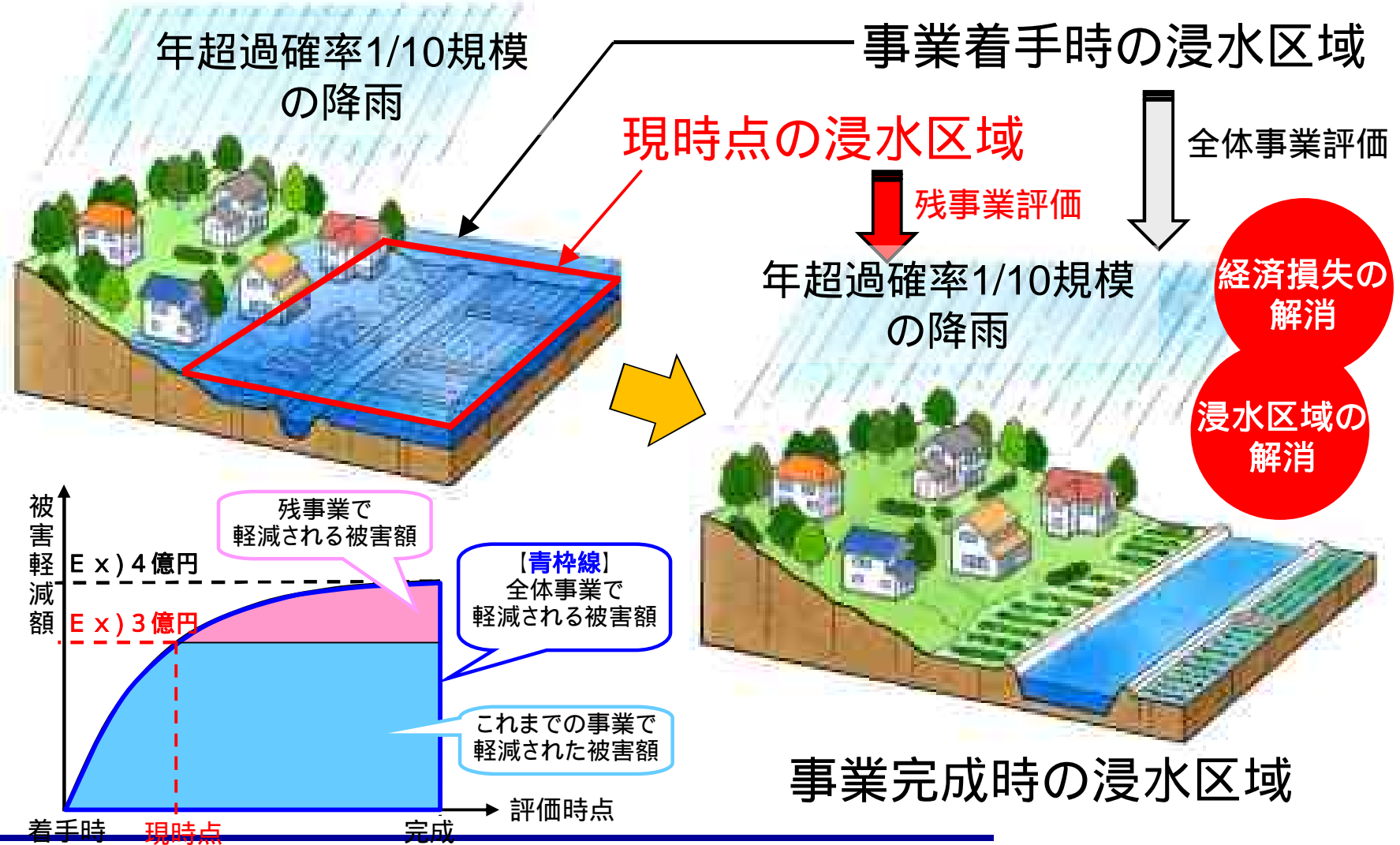
便益(B)	被害防止便益	残存価値	総便益	費用便益比 (B/C) 3.8
	1,075億円	11億円	1,086億円	
費用(C)	事業費	維持管理費	総費用	
	274億円	12億円	285億円	

注1) 便益・費用については、基準年における現在価値化後の値である。

注2) 費用および便益の合計額は、表示桁数の関係で計算値と異なる。

4. 事業投資効果

被害防止便益の考え方



4. 事業投資効果

被害防止便益

項目	残事業	全体事業
軽減される氾濫面積	104ha	191ha
軽減される浸水世帯数	212世帯	863世帯

分類		効果(被害)の内容
直接被害 22.1億円 96.1億円	家屋被害 3.4億円 15.1億円	家屋(住居・事業所)が浸水することによる被害
	家庭用品被害 2.8億円 12.4億円	家具や自動車等が浸水することによる被害
	事業所資産被害 1.9億円 8.0億円	事業所が浸水することによる資産や在庫品による被害
	農漁家資産被害 0.0億円 0.0億円	農漁家が浸水することによる資産や在庫品による被害
	農作物被害 0.3億円 0.4億円	浸水による農作物の被害
	公共土木施設等被害 13.7億円 60.2億円	道路や橋梁、電気、ガス、水路など公共土木施設等の被害
間接被害 1.4億円 7.4億円	営業停止被害 0.4億円 2.0億円	浸水した事業所、公共・公益サービスの停止・停滞による被害
	応急対策費用 1.1億円 5.5億円	浸水に伴う清掃などの事後活動等の出費等による被害
計	23.5億円 103.5億円	

金額は、表示桁数の関係で合計額と一致しない。

上段:残事業 下段:全体事業

4. 事業投資効果

残存価値

評価対象期間終了時点(施設完成年次から50年後)における残存価値

項目	残存価値	備考
構造物以外の 堤防及び 低水路部	0.3億円 4.4億円	適切な維持管理を行うことにより治水機能は低下しないため評価対象期間終了時点まで資産価値の低下はないものとして算定。
護岸等の 構造物	0.2億円 0.5億円	評価対象期間終了時点の価値を総費用の10%として算定。
用地費	0.2億円 6.0億円	評価期間末の価値の想定が困難であるため、取得時の価格に基づき算定。
計	0.7億円 10.9億円	

上段:残事業
下段:全体事業

4. 事業投資効果(前回評価との比較)

前回評価との比較(残事業評価)

	前回再評価 (H23)	今回評価 (H28)	備考
治水経済調査 マニュアル(案)	平成17年4月	平成17年4月	
基準年次	平成23年度	平成28年度	
施設完成年次	平成49年度	平成49年度	
分析対象期間	施設完成から50年間	施設完成から50年間	
総便益(B)	98億円	80億円	事業の進捗に伴い 被害減少
総費用(C)	52億円 (現在価値化前 79.2億円)	55億円 (現在価値化前 64.4億円)	現在価値化時点の更新, 投資済事業費への社会的 割引率の適用により増加。
B/C	1.9	1.5	

5. 事業の進捗の見込み

- ・平成49年度の完成を目標として、下流から概ね10年に1度発生する降雨に対応する整備を進めており、事業費ベースで7割程度まで事業が進捗している。
- ・治水事業への地元からの要望が大きく、事業の進捗が望まれている。

【高崎川】 樋之口橋(現在架替中)



【高崎川】 平成8年9月出水



6. コスト縮減

建設副産物リサイクルの推進によるコストの縮減

既設護岸等の
コンクリート塊を
再利用した
根固め工



掘削土を
再利用した
築堤整備状況



7. 対応方針(案)

事業を継続することとする

【理由】

事業の投資効果が見込める。

残事業 費用対効果 $B/C = 1.5 > 1.0$

事業全体 費用対効果 $B/C = 3.8 > 1.0$

対象河川は佐倉市街地を貫流しており、寺崎土地区画整理事業区域には大規模小売店も進出しているため、浸水時の社会的影響が大きい。

流域の市街化により、河川への流出量の増加が見込まれる。

事業費ベースで約7割程度事業が進捗しており、用地取得もおおむね完了しているため、早期に治水安全度の向上を図る必要がある。

治水事業への地元からの要望が大きく、事業の進捗が望まれている。
